

堤千代 ちよみ 小説家。大正六年九月十二日東京生れ、昭和二十一年十一月十日没（一九七〇年）。本名文子。ふみこ 病のため自宅に獨學。昭和十四年雑誌『オーレ読物』に掲載の「小指」が同年下半期の首末賞候補、次で同誌の「發表の」二作と共に翌年上半期の同賞を受賞。

著書『小指』（昭和十五年十月七日新潮社）、『再會』（昭和十六年

四月十日新潮社）、『夕雀草』（昭

和十六年十月二十八日新潮社）、『柳

の四季』（昭和十七年八月二日新潮

社）、『軍人検護又藝術品集・第二

輯』（合著、昭和十八年七月二十日

軍人保護院編刊）、『我が家の風』

（昭和十八年八月十一日新潮社）、

『幻の小毛』（昭和二十一年八月十

五日労働文化社）、『青い手袋』（昭和二十一年十一月一日山梨・新



星林式會社出版部）、『我が恋は世

の早く』（昭和二十二年七月五日、

再刊。十一月二十日労働文化社「書

下」小説文庫）、『大衆小説傑作

集』（合著・新白木藝術家聯盟、昭

和二十二年九月十五日富國出版社）、

『文鳥』（昭和二十二年九月十五日東曲社。再刊。二十四年二月二十

日近代出版社）、『白粉帖』（昭和二十二年十一月二十日世界社）、

『愛』（昭和二十二年二月五日、再刊。二十四年五月二十日近代出版



社)、コ小島の接吻(昭和二十二年九月十日華頂書房)、コ光は露
い宿りて永遠(昭和二十二年十月二十日ロマン社)等。